感染症発生動向調査委員会報告　12月

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザ注意報が昨シーズンより5週早く発令されました。**
- **RSウイルス感染症の報告が近年で最も多い状態が継続しています。**
- **感染性胃腸炎、伝染性紅斑、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増加傾向です。**

全数把握疾患　12月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	3件	後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）	4件
マラリア	1件	ジアルジア症	1件
レジオネラ症	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件	水痘（入院例に限る）	1件
急性脳炎	3件	梅毒	2件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件		

＜腸管出血性大腸菌感染症＞計3件の報告がありました。原因が明らかになった事例や集団感染事例はありませんでした。家庭内での2次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは特に念入りにきれいにすることが大切です。

＜マラリア＞熱帯熱マラリアの報告が1件あり、渡航先（コスタリカまたはコートジボワール）での感染が推定されています。

＜レジオネラ症＞肺炎型3件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症3件の報告がありました。1件はタイでの経口感染、もう1件は国内での同性間性的接触、残る1件は感染経路等不明でした。

＜カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症＞6件の届出があり、すべて70歳代以上でした。院内での集団感染等はありませんでした。

＜急性脳炎＞3件の報告がありました。そのうち2件（幼児および40歳代）では迅速検査でインフルエンザA型陽性でした。残るもう1件は学童で病原体検索中です。

＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞2件の報告があり、1件は90歳代男性で血清型はG群、もう1件は30歳代女性で血清型はA群でした。どちらも感染経路等は不明でした。

＜後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）＞無症状病原体保有者4件の報告があり、うち2件は国内での同性間性的接触、1件はベトナムでの異性間性的接触、もう1件は異性間性的接触による感染で、感染地域不明でした。

＜ジアルジア症＞1件の報告があり、インド（ムンバイまたはハイデラバード）での経口感染が推定されています。

＜侵襲性インフルエンザ菌感染症＞60歳代男性1件の報告がありました。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞幼児1件、学童1件、成人4件の報告がありました。幼児は予防接種歴（13価）が2回有りました。成人例は1件（80歳代）で予防接種歴（今年9月に23価型接種）が有りました。この例では血清型は1型でした。他は予防接種歴が確認できませんでした。

＜水痘（入院例に限る）＞90歳代の届出が1件ありました。予防接種歴は不明でした。

＜梅毒＞早期顕症梅毒Ⅰ期1件、無症候期1件の報告がありました。どちらも国内での異性間性的接触による感染でした。

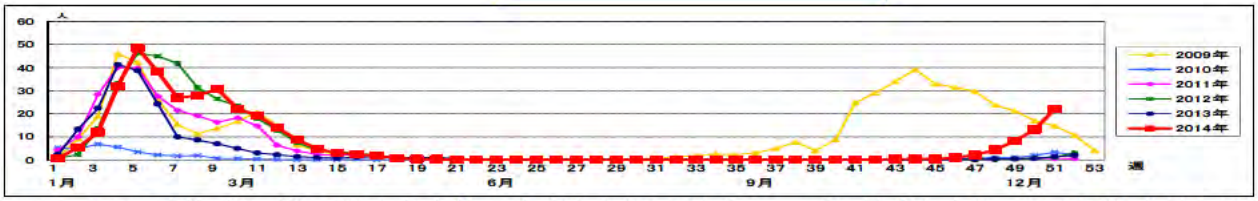
定点把握疾患　平成26年11月24日から平成26年12月21日まで（平成26年第48週から平成26年第51週まで。ただし、性感染症については平成26年11月分）の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成26年　週－月日対応表	
第48週	11月24日～11月30日
第49週	12月　1日～12月　7日
第50週	12月　8日～12月14日
第51週	12月15日～12月21日

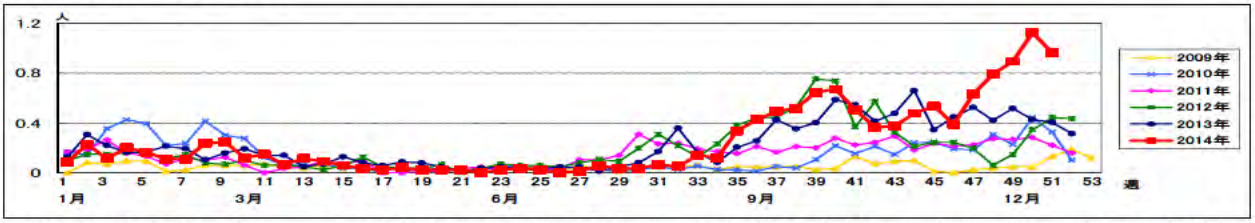
1　患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点：92か所、内科定点：60か所、眼科定点：19か所、性感染症定点：27か所、基幹（病院）定点：4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

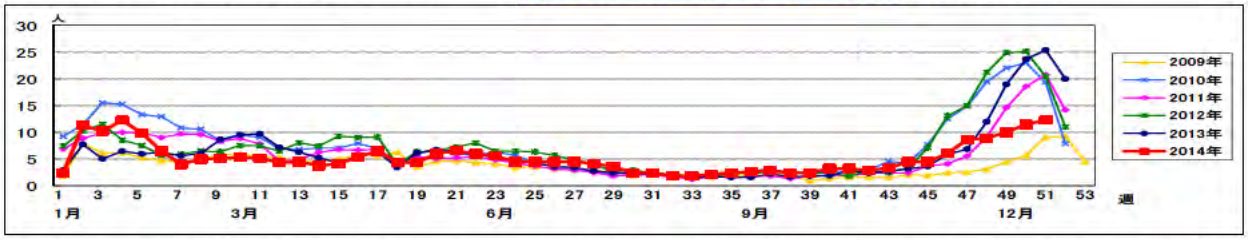
＜インフルエンザ＞第50週に市全体で定点あたり13.22となり、注意報が発令（注意報発令基準値10.00）されました。昨シーズンより5週間早い注意報発令です。第51週は市全体で21.96とさらに増加しています。入院例やインフルエンザ脳症も報告されており、今後の流行に注意が必要です。流行の主体は全国と同様にAH3亜型（A香港型）です。　◆横浜市インフルエンザ臨時情報（衛生研究所）



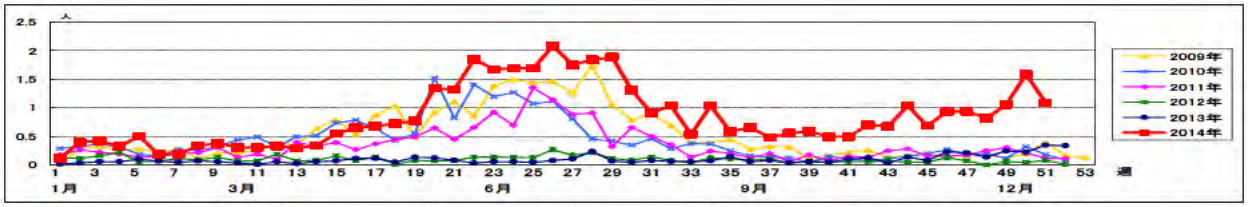
＜RSウイルス感染症＞第51週は市全体で定点あたり0.96と今シーズン最多になり、2009年以来最も報告数が多くなっています。



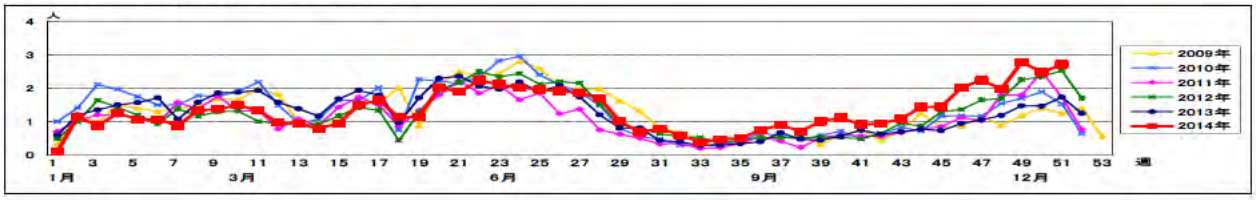
＜感染性胃腸炎＞今シーズンは例年の同時期に比べて報告数は少ないですが、第51週12.28と増加傾向です。集団感染の検体からはノロウイルスが検出されています。これからの季節にかけて増加することが予想されるため注意が必要です。　◆横浜市感染性胃腸炎臨時情報（衛生研究所）



＜伝染性紅斑＞8月頃は減少傾向を示していましたが、その後下げ止まった後、最近は徐々に増加傾向です。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞第51週は市全体で定点あたり2.72と増加傾向です。例年よりやや報告数が多い状態で推移しています。



＜性感染症＞11月は、性器クラミジア感染症は男性が24件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が11件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が19件、女性が0件でした。

＜基幹定点週報＞マイコプラズマ肺炎は第48週1.50、第49週0.33、第50週0.00、第51週0.00となっています。無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞11月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【　感染症・疫学情報課　】

2　病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点：8か所、インフルエンザ（内科）定点：3か所、眼科定点：1か所、基幹（病院）定点：4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

＜ウイルス検査＞

12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点51件、内科定点14件、基幹定点6件、眼科定点1件で、定点外医療機関からは4件でした。

1月13日現在、ウイルス分離48株とウイルス遺伝子17件が検出されています。

表　感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果（12月）

臨床症状 / 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ*	RS感染症	咽頭結膜熱**	胃腸炎
アデノ NT						
		1	1		1	
アデノ 2型					1	
アデノ 3型					2	
インフルエンザ AH3		1	42		1	
単純ヘルペス NT			1			
パラインフルエンザ 1型						
		1				
RS						
	2	3		1		
ライノ						
		1				
ヒトコロナ						
	2	2				1
サポ						
						1
合計	0	1	43	0	4	0
	4	8	1	1	1	2

上段：ウイルス分離数／下段：遺伝子検出数、＊：疑い含む、＊＊：アデノ感染症含む

NT：未同定、ヒトコロナウイルス：HCoV229E or NL63、HCoV-OC43

【　検査研究課　ウイルス担当　】

＜細菌検査＞

12月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から11件、その他が4件で、腸管出血性大腸菌（O157:H7、O74:H11、O型別不能:H21)、腸管毒素原性大腸菌（O25:H-,LT+）、腸管凝集性大腸菌（O142:H12、O121:H+）が検出されました。腸管毒素原性大腸菌（O25:H-,LT+）と腸管凝集性大腸菌（O142:H12）はともにインドへの渡航者から検出されました。小児科定点からはありませんでした。

その他の感染症は小児科から5件、基幹定点から2件、その他が17件でした。A群溶血性レンサ球菌のうち3株（T1の1株とT型別不能の2株）およびG群溶血性レンサ球菌1株の合計4株は劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者から検出されました。*Legionella pneumophila*の血清型は2群、B群溶血性レンサ球菌は1b型でした。その他はコートジボアールへの渡航者から熱帯熱マラリア病原体の遺伝子が陽性でした。

表　感染症発生動向調査における細菌検査結果（12月）

感染性胃腸炎

検査年月	12月			2014年1月～12月		
定点の区別	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数	0	11	4	4	92	131
菌種名						
赤痢菌					2	1
腸管病原性大腸菌					1	
腸管出血性大腸菌			3		1	98
腸管毒素原性大腸菌		1			4	
腸管凝集性大腸菌		2			3	
チフス菌					1	
サルモネラ					25	7
カンピロバクター				1		4
NAGビブリオ						1
ウェルシュ菌					1	
不検出	0	8	1	3	54	20

その他の感染症

検査年月		12月			2014年1月～12月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数		5	2	17	48	37	194
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌	T1	2		1	7		3
	T4				10		
	T6				6		
	T9						1
	T11				1		
	T12	3			9		
	T22						1
	T B3264				2		
	型別不能			2	3		3
B群溶血性レンサ球菌				1		4	19
D群溶血性レンサ球菌							2
G群溶血性レンサ球菌				1			4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						19	2
Legionella pneumophila				1			9
インフルエンザ菌					1		8
肺炎球菌				9	1		85
Neisseria meningitidis							1
黄色ブドウ球菌					1		
結核菌							4
百日咳			1			2	
その他			1			11	6
不検出		0	0	2	7	1	46

＊:定点以外医療機関等（届出疾病の検査依頼）

T（T型別）:A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【　検査研究課　細菌担当　】